

平成26年度 第3回熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 平成26年8月21日（木）

午後3時30分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

《出席者》

■熊本市立図書館協議会委員

山中 守 委員 (会長)

吉村 純一 委員

加藤 貴司 委員

吉永 千草 委員

下城 明美 委員

以上 5人

《欠席者》

田中 誠也 委員

山野 佳子 委員

以上 2人

傍聴者 なし

《出席者》

■熊本市側

緒方 熊本市立図書館長

牛山 植木図書館長

河津 生涯学習推進課長補佐

(事務局)

・中島館長補佐 (熊本市立図書館)

・井手主幹兼主査 (")

・池田主幹兼主査 (")

・坂本主幹兼主査 (")

・清田主幹兼主査 (")

・神鷹参事 (")

以上 9人

平成 26 年度 3 回熊本市立図書館協議会 議事録

- 1 開会
- 2 図書館長挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 委員・職員紹介
- 5 役員選出
- 6 会長・副会長挨拶
- 7 議事
議題
 - ・図書サービスのあり方について（図書サービスビジョン素案の検討等）

【質疑】

（事務局より説明）

委 員 熊本市図書サービスビジョンの各項目の実施時期や期限はどのように設定するのか。

事務局 今回の熊本市図書サービスビジョンは、今後の取組の中で個別具体的な事業を、企画、立案するうえでの参考として位置づけている。今後各項目の考え方を反映させた個別の事業ごとに期限を設定していくこととなる。

委 員 実際の事業化には予算や市全体の構想等が関係してくるが、このあり方検討では、我々委員は、市民の立場で図書館がどうあるべきかという意見を述べることとなる。

委 員 以前意見を述べたことについては良くまとめられている。例えば図書のリクエスト購入などの具体的な細かなことはどのように議論していくこととなるのか。

事務局 具体的な細かなことについては、今後、具体的な改善案を事業化するなかで、図書館協議会等でもご意見をいただきながら、改善を図っていきたいと考えている。

委 員 熊本市図書サービスビジョンと実際の運営とは分けて整理しておかないとい

けない。今のような個別具体的なものになると熊本市図書サービスビジョンには入れづらいと思う。

委員 開館時間等について、柔軟な開館時間や開館日の設定を検討するとあるが、このことを検討するだけでもとても大変だと思う。関係課との調整やそれぞれの公民館の館長との調整が必要となってくる。公民館図書室が16館あるが、それぞれの館で温度差があるため一律にはいかない。しかし、利用者のためになるということであれば、できることからやっていくというような柔軟な発想が必要だと思う。これらの項目を検討するのであれば、とても労力が必要となる内容だと思う。

事務局 個別の事業計画については、これからいろいろな部署と協議をしていかなければならないと認識している。

委員 次は「Ⅱこれからの利用者のライフスタイル、価値観の変化への対応」へ移る。

委員 「取り組みの方向性」は、今後の図書館の今までなかったような新しい役割となるものと思う。

委員 この熊本市図書サービスビジョンが本格的に動き始めると図書館の姿形が大きく変わってくる可能性がある議論だと思う。全体的にバランスよく慎重にまわっていると思う。

委員 情報化ICTの活用を進めていくことについては、これからは市単独で人を雇って行うということは難しいと思う。また、県だけでも国だけでも難しいと思う。もっと高度な専門的知識があるところと一緒にできるかということになると思う。

事務局 図書館単独の話でなく市全体や県や国の取り組みも視野に入れておかなければならないと思っている。その中で図書館の役割は、どのような利用者であってもICTの通信技術により情報が得られるようにカバーしていかなければならないと思っている。

委員 情報化を進めるには、専門家に任せることをいかに早く任せるかということに気が付くかだと思う。

委員 大学でもかつては、優秀な若者を採用すれば情報化へ対応できると思っていたが、今は企業に情報を全て渡しまとめて管理してもらおうという流れになっている。企業に情報を渡したほうが、より良いサービスが提供できる。しかし、情報を渡すため、その情報を悪用されないような仕組みが必要となる。

委員 全体的な管理等は専門化の企業にまかせて個別の中身については自分達で管理していかなければならない。このことに早く気が付かなければならないと思う。またデータベースに関しては、行政と大学で役割分担したほうが良いと思う。タブレットも一般の人達にどこまで普及しているかということ冷静に判断する必要があると思う。様々な課題があるとは思いますが、情報化については避けては通れない。

委員 15ページの交流拠点性の項目については夢があって、いいなと思う。

委員 私自身小さな子どもがいるので一番近い熊本市立図書館によく来るが、子どもなので大きな声を出したりするので落ち着かせるために、大江児童館を利用していたが、午前と午後で利用できる年齢が区別されたりしているので利用しづらいところがあった。しかし、最近城南図書館を利用したが、隣に城南児童館があって開放的でとても利用しやすかったので、距離はあるが今後は城南図書館・城南児童館を利用しようと思っている。このようなことを感じているので、この交流拠点性の中に図書館との関連施設の連携のことも含められないかと思った。

事務局 実際協働している仕事もある。更に一緒に仕事ができる可能性はあると思う。

委員 企画を立てるときに、各部署との橋渡し役のコーディネーターのようなものがあればいいと思う。

委員 民間活力の導入について意見はないだろうか。

委員 民間活力を活用することは大事だと思うが、行政が担うべきことは必ずあるはずだから、そこを押さえたうえで民間活力を活用してほしい。民間に丸投げするだけではない。当然民間に任せればコストを抑えることはできるが、図書館のようなところは、ただコストが安くなればいいというところではない。コストが、かかるところにはかかるので、市民のためのサービスを実

現するためにはコストがかかることは止むを得ない。民間活力を活用する場合は、行政がやるべきことをやったうえで、それから民間活力を活用してほしい。

委員 委員から指摘があったとおり非常に重要なことである。民間を導入すると一時的にはコスト削減されメリットがあるかもしれないが、将来的にどうなるかということも見据えないといけない難しさがあるかもしれない。民間の良いところ、悪いところを具体的に踏まえないといけない。

委員 民間活力の導入というと民間企業を導入する場合もあるが、多くの場合はボランティア等の非営利組織をどのように導入するかということが、メインの議論なってくる。図書館サービスの中に、ボランティアをどう位置づけていくかとか民間の非営利組織をどう位置づけていくかということを検討しなければならないと思う。アメリカの図書館などは、ボランティアらしき人が働いていることは確かなので、そのようなことも長期的には展望しながら考えていかなければならないと思う。

委員 ボランティアというと無償になるが、必要経費などの最低限の金を出してNPOを活用していくことを検討すると、民間活力の導入についての考え方ががらりと変わる。民間企業ではなく民間人の活用とするほうがいいかもしれない。

委員 それでは、他に意見や質問がなければ、これで本日の議論は終了する。以上で今回の議事は終了したので、進行を事務局へ返す。

8 その他

事務局 次回の日程については、9月の中旬から10月の上旬の間で調整する。詳細については、後日連絡する。

9 閉会